

印西大師 第7番 木下・山根山不動尊（金戸の堂・正寶院）

1 名称 (No.007)〔手引鏡：かねこのとう(金戸ノ弥陀堂)〕〔資料館：かねとの堂〕〔行程表：正宝院(かねとの堂)〕

2 場所 印西市木下字金戸(かねど)1474付近

正寶院（山根山不動尊）

上町観音堂から道程約650m

GPS座標 35.84005348445017, 140.15479689506725

3 由緒 山根山 正寶院

堂の建立年代は定かではありませんが、天保7年(1836年)の木下の大火で一度は消滅しましたが、明治21年(1888年)に再建されています。この不動尊には、拝み絵馬、銭貼り付け絵馬、繭絵馬、不動明王額、大願成就額、講中額、俳諧額などが数多く奉納されています。(中略)

また木下河岸の近くにあることから、蒸気船の船長や乗組員などによって船中安全の祈りを込めて一對の狛犬と常夜灯も奉納されています。(印西名所図会) しかし、平成21年5月の火災でほとんど焼失してしまいました。

4 御堂 大師堂の中に丸彫の御大師様が4体あり。一番右の石像（下の写真の右扉）は顔立ちが弘法大師のようですが右手に錫杖（しゃくじょうという杖）、左手に宝珠のような玉を持っていて、五鈷杵を右手に持っている弘法大師の御姿とは異なります。師戸広福寺の大師像を見ると遍路姿は杖を持っている姿なので、これも弘法大師であろうと考え4体としました。なお、右手に宝剣を持って険しい顔立ちをしている不動明王とも異なります。

5 境内 正面の御堂跡空地ですが、境内にはたくさんの石造物が残されています。

6 写真 (2023.10.05撮影)



大師堂



大師堂の内部



山根山不動尊



左扉（弘法大師と不動明王？）



中扉（弘法大師 大・小）



右扉（弘法大師か）

7 情報

(1) 印西大師 第7番 かねとの堂 御詠歌（泉倉寺本による）

人間の八苦を早(はやく)離れなば 至らん方は九品(くほん)十樂

四国八十八ヶ所 第7番 高野山真言宗 光明山(こうみょうざん) 蓮華院 十樂寺(じゅうらくじ)

本尊 阿弥陀如来(徳島県阿波市) 写し

(2) 山根山(やまねさん) 不動尊の由来(現地説明板より)

当寺院は山根山(やまねさん) 正寶院(しょうほういん) といい、江戸時代から木下の北向き不動尊として広く人々の信仰をあつめてきました。

不動尊像は木彫りで寄木造りの座像です。尊像の高さは六十センチメートル余り、色はやや青みを帯びた黒色で、仏師や作成年月は不詳です。脇侍の矜羯羅童子(こんがらどうじ)は立像、制吒迦童子(せいたかどうじ)は座像で、明治二十三年三月に仏師慶忠によって新しく作られました。ご縁日は毎月二十七日で、元日と節分、五月、九月のご縁日には堂内で護摩修行を行い家内安全、商売繁盛の祈願が行われました。この不動尊の靈験は顕かにして特に戦時中の災厄を免れた例など数多くあります。

堂宇は明治二十九年に再建されました。四間四方総瓦葺きの木造で、堂内には阿弥陀如来、観世音菩薩、勢至菩薩の各立像、木彫りの青面金剛立像、信者から奉納されたガラス絵や俳諧額、繭額、護摩壇の天井に描かれた龍の絵と飾りのついた天蓋など珍しい文化財が数多くありました。

平成二十一年五月二十五日午前零頃、不審火によってすべて焼失しました。

境内には十万年前の貝化石の灯籠が二基、三鈷を乗せた墓石の供養塚、講中連や船頭衆から奉納された石塔類が多く有ります。なかに「娘小宰相」と刻まれた平将門の愛妾「桔梗の前」の供養塔がひっそりと建っています。また、境内の一隅には印西大師七番のお堂があり、春の大師参りで賑わいます。 平成二十二年七月 山根山不動尊

(3) 平成21年5月の火災前の山根山不動尊の写真



平成20年(2008年)6月28日本堂



平成20年(2008年)6月28日本堂



平成20年(2008年)6月28日線刻の不動明王

(4) 木下の大火

印旛郡誌にもあるように、天保7年(1836年)11月28日の木下の大火で民家、庵など64軒が焼け、この時、(正寶院の) 弥陀堂も焼けてしまったようです。(山本忠良著「印西外史」)

(5) 小宰相伝承

山根山不動尊には、「娘小宰相之靈」と刻まれた供養塔があります。これは明治24年に時齋(とき)念仏講中によって再建されたもので、供養塔には次のような内容が刻まれています。

「念心大徳というのは、下総国香取郡佐原領の牧野庄司のこと、剃髪して木下に庵を結び、娘小宰相こと桔梗の前の菩提を弔った。晩年資財を投じて庵隣接地を買受け、堂庵を建て資産とした。享保15年(1730) 当地の時齋念仏衆が、念心の慈善功績を讃えて大法要を行い、石碑を建てた。天保7年(1836) 11月の大火によって堂も損壊し、石碑も埋没してしまったが、明治24年に不動尊再建の際に念仏講中によって再建されたのがこの供養塔である。」

このように古くから小宰相伝承があったことがわかります。(印西名所図会)



娘小宰相之霊（明治24年建立）



三鈷を乗せた墓石の供養塚



貝化石の灯籠

2024.06.06一部修正